

男女共同参画社会

を考える情報誌
ききょうフォーラム通信



令和5年度いせはら男女共同参画フォーラムを開催しました

講師 ^{なかむら けん} 中村 健氏 (Xジェンダー、アロマンティック・アセクシャル当事者)
テーマ 性別って男性・女性だけ?
～多様な性のあり方を考えよう～
開催日 令和6年1月13日(土曜日)
場所 伊勢原市民文化会館 小ホール



LGBTQ当事者向け交流会の主催やメディア発信も行っている中村講師

講演当日の内容を踏まえ、感じたことを皆さんにお伝えします。

最近では、LGBTやXジェンダーなど、多様な性に関連した言葉に触れる機会が増えました。しかし、人々の中にはごく自然に、むしろ当たり前のように性別に関する固定した認識があります。中村さんには多様な性をどう受け入れていけばよいか話していただきました。

「性」にはさまざまな形があり、尊重すべき(されるべき)もの

戸籍上の性別(産まれたときに医者から割り当てられた性)と自認する性が違うのが「トランスジェンダー」、自認する性が男性でも女性でもないのが「Xジェンダー」です。これらの性ははっきりと男性と女性に明確に分かれているわけではなく、グラデーションのようになっています。

同じ人でもその時々によって割合が変わることもあります。また、自認する性と表現する性(服装など)が異なる人もいます。惹かれる性が異性か、同性か、両方か、性を問わないのか、どちらにも惹かれないのかも人それぞれです。

自らの性のあり方について他の人に伝えるかどうかは本人が決めることで、カミングアウトを受けた側が本人の同意なく第三者にセクシャリティを伝えること(アウトティング)は本人を傷つけることにもつながります。

実は、性を考えるうえでは4つの要素がある

①戸籍・身分証上の性(Assigned Gender): 割り当てられた性



②自認する性(Gender Identity): 自分の性をどう思うか



③惹かれる性(Sexual Orientation): 惹かれる相手の性



④表現する性(Gender Expression): 服装、しぐさ、言葉遣い等



自らの性と葛藤しながら、生き方を模索した思春期

中村さんは学校の制服やトイレ、修学旅行のお風呂や水泳の授業、恋愛の話になじめないなど、子どものころからさまざまな困りごとがあったそうです。社会が求める「ふつう」の姿を求められてもできない、なぜ嫌なのかを説明できない、誰にも相談もできないということが辛かったそうです。それでも、自分の話を「そうなんだ」と受け入れてくれた人が周りにいたことで救われたと語りました。また、バイトを始めたことで、いろいろな生き方を知る機会になったそうです。こういった中村さんの体験は、性のあり方に疑問を持ったり、多様な性について触れる機会がなかったりした人にとっては気づかないことも多いと思います。



小さな「決めつけ」がやがて「差別」につながる

性のあり方は男性・女性だけでなく多様な性があるのだと日頃から意識をすること、分からないことは書籍や漫画、映画など身近なものからを知ろうとすること、性のあり方に関する話をする場合は、相手に確認を取ること、また相手が聞いてほしくない様子であればそこで立ち止まり詮索しないことが大切だと話されました。自分の中にある小さな決めつけが相手を傷つけることもあると気づくことが、相手の気持ちに寄り添い、差別をなくすことへの第一歩なのだと思います。差別的な場面を見かけたら、その場で声をあげられなくても、首をかしげる、言いかえる、後から本人に伝えてみる、その場に傷ついていそうな人がいたら後から個別にケアをするなど、できることはたくさんあると学ぶことができました。

こういった多様な性への考え方は、性だけでなくさまざまなマイノリティな部分を抱えている人々の事を考えるときにも共通することがたくさんあると思います。それぞれが相手のことを知るための知識をもち、気遣える優しい社会になるといいですね。

男女共同参画コラム 男女の考え方に違いはあるの？

大学院で人間科学を研究している男女共同参画推進委員に、心理的な側面からの男女の性差について、話していただきました。

男性の脳と女性の脳を比較すると、どちらかというとなは論理的・女は感情的であるということ、皆さんは耳にしたことがあるかもしれません。



モグラ

アメリカの心理学者キャロル・ギリガン(Carol Gilligan, 1937年11月28日生まれ)は、11歳から15歳の男女にあるお話をしました。「一匹のヤマアラシが洞窟に住むモグラの家族に冬の間だけ、いさせてほしいとお願いしました。モグラはその願いを聞き入れましたが、洞窟が狭く、次第にヤマアラシの針がモグラに引っかかるようになり、モグラはヤマアラシに出て行ってほしい」と伝えました。ヤマアラシは断り「嫌ならモグラが出ていけばいい」と言いました。

さて、子どもたちはどう考えたのでしょうか。男の子たちはモグラの家だからヤマアラシは出ていくべきと主張し、女の子たちはヤマアラシに毛布をかければ良いと考えました。正義の倫理とケアの倫理と呼ばれる考え方です。



ヤマアラシ

もしかすると、ケアをする職業に女性が多いのもこうしたことが影響しているのかもしれません。どちらの考え方も大事ですし、これは発達段階の差である可能性もあります。また感情面では、女性が男性よりも優位であることや、女性は男性より感情表現が多く、女性は男性よりもよく笑顔を見せるとの報告もあります。ただ、感情にも種類があります。怒りや不安、幸福、喜びなどさまざまです。脳の構造や機能における性差研究の報告では、構造に差はあることは報告されていますが、機能には顕著な差があるとはいえないという最新の研究もあります。

一部の研究結果を全ての人に当てはめ、「男は論理的・女は感情的」という男女の差は生まれつき変わらないものと認識してしまうのは危険です。むしろ、遺伝や成長過程における生活環境・習慣といった個人差による影響も大きいとも言えるのではないのでしょうか。

編集

伊勢原市男女共同参画推進委員会

発行

伊勢原市人権・広聴相談課
人権・男女共同参画推進係
伊勢原市田中348
電話:0463-94-4716(直通)
FAX:0463-92-9009
E-mail:jinken@isehara-city.jp



過去のききょう
フォーラム通信
はこちらからご
覧いただけます

【編集後記】

神奈川県内の全自治体がパートナーシップ宣誓制度を導入するなど、性の多様性の理解は少しずつ進んでいるとは思いますが、まだまだ偏見が無くなったとは言いがたいのも事実です。

男女共同参画推進委員としても、十人十色さまざまな考えをもつ人々を尊重し、誰もが暮らしやすい社会が実現されることを願っております。